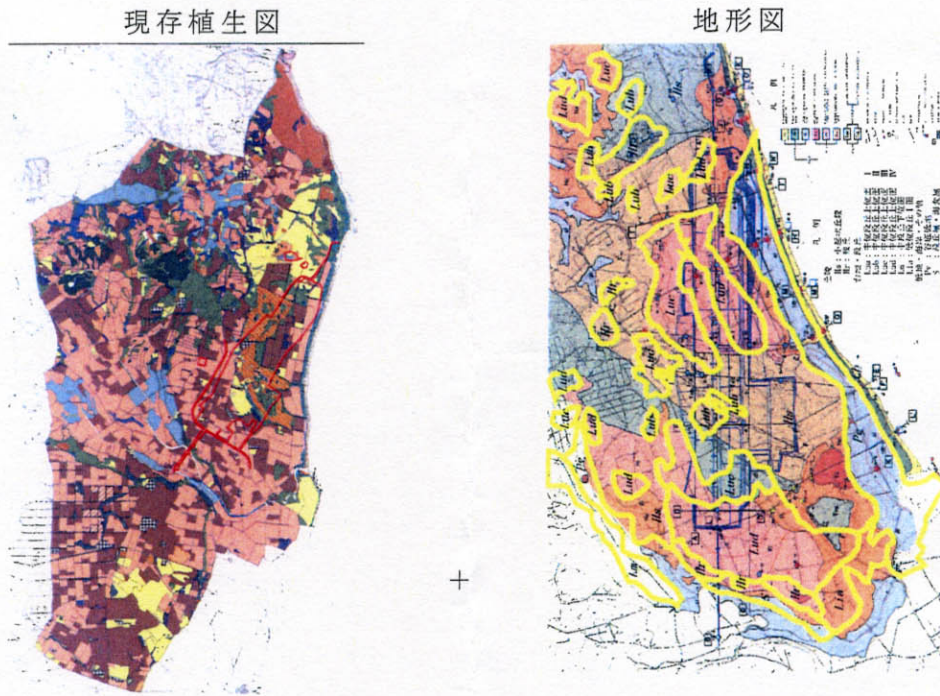


なお、ここでは便宜上、「①生態系の基盤環境」、「②地域を特徴づける生態系の注目種」、及び「③生態系の機能と構造」に項目分けをして記載しているが、それぞれが無関係に独立したものではなく、強く関与しているものであるとの認識に基づいている。



調査地域における主要な生物相

| 分類群 | 植物  | 哺乳類 | 両生類 | 爬虫類 | 鳥類  | 昆虫類  | 甲殻類 | 陸産貝類 | クモ類 | 魚類 | 貝類 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|----|----|
| 目数  | 53  | 3   | 1   | 2   | 13  | 23   | 4   | 4    | 1   | 12 | 6  |
| 科数  | 142 | 6   | 4   | 8   | 35  | 242  | 27  | 20   | 27  | 31 | 19 |
| 種数  | 694 | 6   | 9   | 18  | 110 | 1127 | 103 | 35   | 94  | 98 | 59 |

### 生態系の機能と構造の整理・分析

- 環境類型区分に基づき、調査地域の環境特性や生物群集に留意し、生態系の機能と構造を整理・分析した。
- 生態系の機能（生物資源の生産、生物多様性の維持、遺伝子情報の維持、有機物生産機能）、「場」としての機能（繁殖・産卵場、集団ねぐら、台風時の避難場、採餌場、河川と海の往來の場）、環境形成維持機能（酸素の供給、CO<sub>2</sub>の固定）、物質循環機能（C、Nの循環）、緩衝的機能（地下水の涵養、微気象の変化の緩和、表土の安定）については、小類型ごとに果たす役割の大きさを整理・分析した。
- 生態系の注目種の上位性、典型性、特殊性に留意し、食物連鎖の構造、類型間を横断する生態系特性の模式図を作成した。